

# AMAKURU RWANDA

青年海外協力隊 2017 年度 4 次隊

ルワンダ・コミュニティ開発(水の防衛隊)



野田 恵莉



Muraho! (こんにちは！)  
東アフリカ、ルワンダから  
ニュースレターをお届けします。

## TODAY's TOPIC

- わたしの活動  
「ルワンダ人からルワンダ人へ広がる活動」
- 任地の暮らし  
「先生は子どもたち！ルワンダの遊びに挑戦。」



EXPO にて売店のママと話をしている青年。

## ルワンダ人からルワンダ人へ広がる活動

2019 年 8 月に東部県 EXPO が開催され、私たち隊員も配属先や任地のルワンダ人とともに「水衛生×栄養」をテーマに出展しました。私は、前回紹介した任地の売店のママと協働し、“野菜を練り込んだチャパティ（薄焼きパン）”の実演販売と栄養バランスの説明をする機会をもらいました。その際、多くの来場者がブースを訪れてくれましたが、中でも熱心に、彼女から野菜チャパティの作り方など聞いていた青年がいたのを覚えています。

数か月後、ママから「野菜チャパティづくりを学びに来ている生徒がいる」という知らせを受け、売店を訪ねました。そこには、黙々と丁寧な手つきでチャパティ生地を 1 枚、1 枚伸ばしている青年がいました。まさにあの時、EXPO で熱心にママと話していた青年でした。

彼は、隣まちのガソリンスタンドで働きつつ、時間を見つけては、ママのお店へ来て野菜チャパティづくりを学んでいます。「EXPO で君たちボランティアの栄養に関する活動や、売店のママの取り組みに刺激を受けたんだよ。ここで修行してスキルを習得したら、お店を出したい。」と目をキラキラさせて語ってくれました。

これまで任地でルワンダ人のキーパーソンと行ってきた栄養改善の活動が、今となってルワンダ人からルワンダ人へ活動が伝播している現場を見ることができ、とてもうれしかったです。今後も売店のお母さんとともに、彼の夢を応援したいと思います。



## 先生は子どもたち！ルワンダの遊びに挑戦。

テレビやおもちゃがめずらしい任地では、子どもたちは身の回りにあるモノを遊び道具に変身させ、日々自分たちで遊びを創り出しています。さて、今回は、ルワンダの農村でのびのびと暮らす子どもたちが教えてくれた遊びを紹介します。

道を歩いていると軒下で楽しそうにジャンプしている子どもたち…日本の昔遊びを思いださせる“サダムサダ”（写真①）を教えてくださいました。「サダムサダ、サダム、ソジサ、エサエサ、ソ！」2人で向かい合い、リズムに合わせて、両足跳びで線を飛び越えてサイドステップをつづけます。線を踏んではいけません。日本の遊び「あんたがたどこさ」や「けんけんぱ」に似ています。

次に、“ゴムを丸めた小さなボール”を使った遊び。とても弾みが悪い手作りボールを上手につき、足の間をくぐらせます。難易度の高いドリブルの技に挑戦するなど、大人も盛り上がる遊びです。また、ボールがバウンドした瞬間をジャンプしてまたぐゲームもあります。（写真②）

最後に、定番“タイヤのリム回し”（写真③）です。運動会の障害物リレーでリム回しをしたことがある人は多いのではないでしょうか。農村では、自転車のタイヤは子どもたちの遊び道具。木の枝などを使い、器用にタイヤを操り、走り抜けます。

最後には、日本の遊び“けん玉や竹トンボ、けんけんぱ”に挑戦。子どもたちは新しい遊びに興奮し、1日中遊び続けたのでした。

次回もお楽しみに。Murabeho~！（またね！）

